

2005/05/03

「キリストの再臨」

皆川 尚一

「あなたの神に会う備えをせよ」(アモス4:12)

今年「キリストの再臨」という教会標語を掲げたのには、いくつかの理由があります。

終末の前兆

終末の前兆がますます数多く世界的規模で起こっていることに目を留めたいと思います。イエスさまが、マタイによる福音書第24章で予告された通りです。

第1に、戦争がいよいよ核大して世界的テロ戦争になってきました。昔は世界の各

地で地域的な領土争奪戦などがおこなわれました。部族紛争、国家間の紛争、国内紛争、イスラムの宗教戦争、キリスト教の十字軍、帝国主義の植民地獲得戦争、植民地解放の民族独立戦争、共産主義による帝国主義国家打倒とプロレタリア独裁世界建設を目指す戦争。アメリカ極世界樹立戦争(世界的テロ撲滅戦争)、そして、第19世紀から今日までの各種戦争の背後に国際的軍産複合体があつて、戦争の火種を世界中にバラ蒔いて戦わせ、武器の商人として大儲けするという謀略が働いて来ました。これらの謀略の主(ぬし)はイギリスのロンドンに隠れている反キリスト(サタンの手先)だといわれます。彼とその首脳部は、共産主義崩壊を偽装しながら、人権主義、男女平等、世界的な家庭崩壊、平和主義、国家崩壊、人間崩壊、人間奴隷化、人間家畜化を広めて行こうとしています。武器による人殺しではなく、思想(イデオロギー)、学問、宗教、性欲、食欲、権力欲、暴力、麻薬、酒、タバコ、TV、スポーツ、その他によつて人殺しをします。反キリストの手先はローマ教皇をも動かして、表面上は平和を説きながら、裏では共産主義者や、ヒトラーとナチスを助けたりさせました。日本でも、カトリック正義と平和の会や、プロテスタントの平和主義の牧師たちは新左翼運動の担い手になっています。サタンは羊の皮を被つたおおかみの姿でやってきますから、だまされないように気をつけなければなりません。

第2に、天変地異も世界的に広がっています。大地震、大津波、地震や津波につ

いては、闇の権力の謀略により、スカラ一波を用いて自由に地域を選んで地震を起こすことが出来るという説があり、阪神・淡路大震災や、スマトラ沖大津波のさいに、その疑いを持つ人がいました。台風、ハリケーン、大洪水、水、空気、その他の環境汚染、オゾン層の破壊、また、これらの原因として

うわさされる「フオンベルト」の影響があります。「フオンベルト」については、のちほど取り上げたいと思います。更に、偽預言者、偽キリストが世界的に増えています。不法が増すゆえに人々の愛が冷え、憎しみが増し、盗み、強盗、殺人が毎日増えています。

第3に、福音宣教は地球上のあらゆるところにまで行われました。これもイエ

スキの預言の成就です。(マタイ24:14参照)

しかし、これまでキリスト教国と呼ばれてきた国々での信者数は著しく減少しています。信仰的に眠っているクリスチヤンも増えています。イギリス、フランス、ドイツ、その他の古いキリスト教国では、生きたクリスチヤスの数が日本並みに国民総人口の1%に落ちています。アフリカや中国大陸などではカリスマ的なクリスチヤンの増加が伝えられていますが、聖霊の伝道者に混じって、ベニー・ヒンのような悪霊の伝道者がアメリカ、日本、インドなどでもはやされ、その悪影響を拡大しています。

第4に、反キリストの勢力は、世界的に拡大し、ワン・ワールドやグローバリズ

ムといった標語を掲げて世界的な悪魔の独裁国家を造り上げるために狂奔しています。1948年にイスラエル共和国が再建されたのも、終末の前兆の一つです。

キリストに対する憎しみと同時に、ユダヤ人に対する憎しみも世界的に増大しています。やがて、聖書の中でゴグ・マゴグと呼ばれているロシアと中国、イランなどが強大な連合軍を組織して、イスラエルの都エルサレムを攻撃してくるだろうといううわさがあります。そこで米英伊連合軍と決戦をおこなうのがハルマゲドンの戦いであり、. 現在の世界はその方向にむかつて動いていると多くのクリスチヤンは感じているようです。また、666の数字が商品のバーコードに行き渡り、コンピューターにもwww(ヘブライ語の666)の記号が世界的にもちいられています。(黙示録13:11~18参照)

第5に、わたしたちの親しい人々の中に、世の終末の変動や裁きを夢で見たという

経験をもつ人が何人かいます。**夢、幻、みことばによる啓示**は大切

ですが、慎重に吟味される必要があります。

1992年10月に空中携拳があるという預言の本がわたしの許に送られて来ました。著者は東京ニューエルサレム教会の韓国人李長林牧師です。題名は「1992の熱風」でした。著者はこれまであつた偽預言や外れた夢、幻などの実例を挙げて、十分慎重にそうしたものを吟味し、真偽を識別しなければならないと解説した上

で、これは間違いないと信じられる夢や幻を紹介しています。

- 例えば、①広門市鉄山洞の金君は、1989年2月8日の夜、夢うつつの中で天の不思議な光景を見た。1992年に大地震が発生、姉の善姫(ソンヒ)が突然消えてしまった。ある日政府の役人たちがきて家族の手に666の印を押すという。拒んだものたちは大きな圧死機に入れられて死んだが、栄光の体に甦って、天で善姫に迎えられた。という夢。
- ②新林洞の李執事は、霊の啓示により90年から青年たちに聖霊が注がれ、91年からは主の再臨の兆候が現れ災難が生じ、92年10月には地上から天に引上げられ、11月からは聖霊が地上から全部なくなるという示しを受けた。
- ③京畿道広州の祈禱院長金武牧師は、誰よりも数多く霊界に往来し、しかも自己宣伝をいらない謙遜な人であるが、「主は1992年10月に再臨され、その時に携挙があるんだよ」とわたしに語った。
- ④釜山市の許執事は、1998年晴天の日に雲で1992という数字が浮かぶのを見た。そのとき主が「1992年10月に私が来る」と語られた。
- ⑤米国ダラスに住む10歳の少年も、主に1992年10月に再臨するといわれた。
- ⑥大丘市の高神教会の張牧師は夜夢を見た。太陽と月が赤く染まり、星座が振動し、地に向かって落ちてくるのを見た。火山が爆発し、樹木が焼け、すべてが灰に変わり、荒涼となり、川は凍って氷の上に灰が落ちた。その時「92年である！ 92年である！」と大声で叫ぶ自分の声で目が醒めた。
- ⑦全南の梁牧師は信徒のひとりが、92年10月28日に主が再臨し、地球上では各国で携挙が発生すると伝えてくれたと語った。

その他にも沢山の証言があるので、これは間違いのない主の示しであると多くの牧師、信徒が信じて、ソウルの教会に多額の献金や財産の献納がありました。

しかし、預言された1992年10月28日にはキリストの再臨も携挙も起こりませんでした。李長林牧師の厳密な吟味を経た確信も間違いを免れませんでした。

なぜでしょうか？ その答は結論に記したいと思います。

第6に、フォトンベルトによる天変地異が問題になっています。フォトンとは光エネルギーのことで、「光子」と訳されます。元素の一番小さい状態を「原子」といい、原子の中心には陽子と中性子から出来た「原子核」があり、その周りを電子がまわっています。その電子の反粒子を陽電子といいます。そして電子と陽電子とがぶつかって光子が生まれます。

フォトンには太陽からも発生し、膨大な量のフォトン。エネルギーが帯状になっている状態をフォトンベルトといいます。これは人類がまったく扱ったことのない未知のエネルギー

一です。これは巨大なドーナツ型をしており現在その一方の端がペガス座のメンカリナン星付近に見られます。しかし、これは通常の方法では見ることができず、強力な多相カラー分光器で処理することによって見る事が出来るそうです。

地球は公転軌道の関係で、フォトンベルトの中に出たり入ったりしながら2012年の冬至にはスツポリその中に入ります。一番危険なのは2012年12月22日です。その影響を列挙して見ると、

- ① 地磁気が減少しつつある。
- ② フォトンは水に溶けやすいので海流や海の塩分に変化。
- ③ 22日前後丸三日間太陽光が遮断されて暗黒状態となる。猛烈な寒さに襲われる。
- ④ 電気装置や自動車になど使用不能になる。
- ⑤ 地球上のあらゆる原子はまるで電子レンジで加熱されるように、燃えることなく変容し、人体の原子構造も変化する。すべての生命体のボディ・タイプが変容する。
- ⑥ 地磁気の異常によりDNAのバランスが大きく崩れ、新しいDNAを持った人類が誕生
- ⑦ 人類は三次元の空間から、まったく新しい時間軸へ移行する。
- ⑧ 次元上昇(アセンション)が起こる。聖書でいう「携挙」か？

《人体に現れ出した異変の数々》

- ① 心身ともに健康であるにもかかわらず、何か胸につかえるような症状。
- ② 背中が痛む。
- ③ 妙に倦怠感がある。
- ④ インフルエンザに似た症状が頻繁におきる。
- ⑤ めまい、心臓動機
- ⑥ 呼吸困難
- ⑦ 頭痛(脳内ホルモンの分泌異常が原因)。
- ⑧ 吐き気。激しい下痢。
- ⑨ 極端な疲労
- ⑩ 筋肉痛、関節痛、けいれん。
軽い記憶喪失感
耳の痛み
免疫力の低下
爪や髪の毛の伸び方が早くなる。

第7に、マヤ暦の終わりの時期が、2005年12月22日になっています。

マヤ文明はBC3世紀からAD9世紀にかけてメキシコ南部、グアテマラの熱帯雨林で栄えた文明です。マヤ人は、マヤの世界が始まった日から経過した時間を示す

長期暦を作りました。それは25,625年です。さらにそれを13バクトウン(1バクトウンは144,000日)で割り、五つに分けました。そして最後のカレンダーはBC3113年から始まり、2012年12月22日に終るとしています。

神に会う備え

以上のようなこの世の終わりの前兆に対して、わたしたちが神様にお会いする備えをどうしたらよいか、これがこ今日の課題です。

主イエス様は、再臨の時期について、「その日、その時は、だれも知らない。天の御使いたちも、また子も知らない、ただ父だけが知っておられる」(マタイ24:36)と語り、「だから目をさましていなさい。いつの日にあなたがたの主が来られるのか、あなたがたにはわからないからである」(同42節)と命じられました。ですからわたしたちは出来ることは、年月日を特定することではなく、終末の前兆を見て、目をさまし、聖霊で満たされて、霊性を高め、何時死んでも良いように準備しつつ、今与えられている人生を信仰と愛と希望によって生きることです。アアメン